

栃木市観光基本計画 第3回策定委員会 議事要旨

日時：平成25年11月21日（木）14：00～16：05

場所：栃木市 栃木市民会館

出席者：別紙

開 会あいさつ（高崎課長）

委員長あいさつ（清田委員長代理）

資料説明（事務局） （1）「観光を取り巻く環境の整理」「現状と課題」等について

清田委員長代理

気になる点等ありましたらご発言ください。

つがまち観光協会 日向野委員

P.20 にスポーツツーリズムとありますが、特に具体的な何かはあるのでしょうか？

観光協会の予算が減額になったと聞いています。その辺りについて何かあればお聞きしたいです。

事務局

観光基本計画において具体的な施策を盛り込むというよりは、担当部署との調整のもと、担当部署の計画に記述したいと考えています。

また、観光協会への補助金の減額については、現在の所把握していない状況です。

公募委員 酒井委員

観光とはちょっとずれると思いますが、事務局にお伺いしたいと思います。合併後、各スポーツ協会も統一化している中、予算も減額され、各地域の行事が開催しにくい状況です。何か計画はあるのでしょうか。

事務局

正直お答えしにくい部分です。観光を所管する部署として、スポーツに関する施策については正直把握しておりません。

資料説明（事務局） （2）「基本理念」「戦略プロジェクト」等について

清田委員長代理

資料説明いただいた部分については、計画の肝になる部分です。事前にご意見を出している方もいらっしゃいますが、お一人づつご意見を頂ければと思います。

それでは、鈴木委員から順にお願いします。

東武トラベル株式会社 鈴木委員

事前に出した意見に対して、先程事務局の方から説明もありましたので特にございませ

ん。

株式会社 JTB 関東 平澤委員

スタートアップ事業についてですが、どのようにハンドリングしていくイメージなのかお伺いしたい。取り組み主体ということで色々あげられていますが。

事務局

P. 96 からスタートアップ事業が掲載されており、上から3段目に取り組み主体とあり、「●」と「△」があります。これは、ページ最下段に凡例としてありますが、「●」が主体的に取り組み、「△」が共同で取り組むイメージです。P. 96 の「観光施設及び資源のデータベース事業」については「市民」と「行政」が主体となって事業を進めていくと考えています。ただ、P. 96 にかかわらずすべての事業において、「行政」が事務局として係わっていききたいと考えています。

株式会社 JTB 関東 平澤委員

行政が事務局としてそれぞれの事業に案を出し、それぞれに割り振っていくというイメージでよろしいのでしょうか。

事務局

事業によっては「行政」や「市民」などの関わり方も変わってくると考えています。事業によっては、行政が1から9まで係わった方が良いものや、行政があまり口出ししない方が良いものもあると思います。例えば、P. 99 の観光まちづくり推進会議は、立ち上げや段取りについては行政が率先して行いますが、実際に始まってからは行政から案を出し、計画を進めていくというのは少し乱暴だと思います。事業により、それぞれの役割分担は変わってくるものと考えております。

ケーブルテレビ株式会社 阿久津委員

資料の意見要望書の内容については理解しました。

P. 98 の観光ホームページの充実について、市民に「△」がついているということは、登録した市民が投稿できる参加型のサイトを構築するということが協働ということなのかお聞きしたいです。

事務局

現在、facebook や twitter を活用している観光協会や自治体は非常に多くあります。栃木市の観光協会においても「ロケ情報」や「花の開花情報」などを発信しています。本来であれば、市民の方が「太平山は今何分咲だよ」といった情報を最初に発信していただくと、市民主導で行っているイメージになると思います。まずは、各観光協会の本来の意味での一本化を目指しています。

足利銀行 美藤代理委員

P. 50 の目標値と現状地についていつの年度なのか記載してある方がわかりやすいと感じます。

次に、P. 52 の基本計画の体系図において、こちらの資料はこの計画の全体像をイメージさせる部分であるので、具体的アクションやスケジュールなどについても表示することが可能であれば表示した方がわかりやすいと感じます。

もう一点ですが、P. 64 の自転車ネットワークの形成に関する事例紹介において、愛知県豊田市などを事例として挙げていますが、県内においても宇都宮市や那須町などが市民を中心とした自転車のまちおこしを行っています。この計画を目にする市民にとっても、遠くの知らない街よりも、県内の身近な街の方がイメージしやすく良いと思います。

事務局

P. 50 についてはご指摘の通り修正させていただきます。

P. 52 については、資料説明時に不足がありました。基本体系図においては、具体的アクションやスケジュールが固まり次第、最終的にはご指摘の通り表示する予定であります。

P. 64 についてもご指摘のとおりであり事例都市の見直しを図ります。

大平町観光協会 片柳委員

基本計画書としてはいろいろな角度から検証しており、またいろいろな人たちから話を伺い盛り込んでおり、よくできていると感じます。

これらを実行していくためには個々の取り組みが重要になると感じております。

P. 50 の具体的に出している数値目標の達成を目指し、それぞれの地域の観光資源や商店にお金を落としてもらうために、各商工会などと協力していただきたいと思います。

P. 88 の「施策4 関連アクション①-1-3」について、大平町には「道の駅」は無いので「まちの駅」に修正した方が良いと思います。

事務局

観光とは、多様な主体が有機的に結びついてはじめて成り立つ産業だと思います。ですから、「スタートアップ事業の4」として観光まちづくり推進会議の立ち上げをあげており、この計画の目玉と考えています。この会議には、商店の方や事業者の方などに参加していただき、実利のある観光施策を進めていきたいと考えております。

P. 88 のご指摘の部分については表現を検討したいと思います。

栃木市藤岡町観光協会 田中委員

私からは報告とお願いをしたいと思います。

観光協会の予算は非常に少ない状況です。各地域も同様だと思います。市長は、農商工観といった産業の活性化のためにはお金を出すと言っているが、予算は減額されています。今後はさらに減額されていくものと考えているので、少なくとも各地域が一丸となって行政に対して話をしていきたいと思います。この発言に対しての行政の回答は必要ありません。

次に、大変うれしい事として岩舟町の合併があります。先ほど大平町には道の駅がないとのことでしたが、大平町にはぶどう団地や大きな桜まつり、岩舟町には花センター、藤岡町には道の駅と渡良瀬遊水地があります。表現は古いですが「大岩藤」が一体となって発展していきたいと考えています。

つがまち観光協会 日向野委員

P. 57 のニューツーリズムの推進は短期とありますがどの程度を短期というのでしょうか。また、大柿地区ではグリーンツーリズムを進めているところです。今後、行政はどれだけ協力していただけるのか。

次に、基本計画を作成するため、先進都市への研修を実施しているのか。

P. 59 の大田原市の事例は自転車の活用が抜けており情報が古いと感じます。

事務局

ニューツーリズムの推進について短期という部分でどんなことを行っていくのかということでは、今年度から取り掛かっている部分もあります。まず現在、栃木市観光協会を中心として、体験型プログラムを組み込んだ着地型の旅行商品のパンフレットを作成しているところでもあります。また、短期の期間は平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 カ年としています。

スケジュールの捉え方は難しい部分があると思います。例えば、P. 57 のニューツーリズムの推進は短期事業としてあげられており、平成 26 年度からの 3 カ年において事業完了を目指しております。その下の滞在時間の延長の促進については中期事業としてあげられておりますが、最初の 3 カ年何もしないということではなく、事業の完了に向けて取り組みは行いつつ、事業の完了目標が平成 29 年度からの 3 カ年ということです。スケジュールの表記については誤解を受ける部分もあると思うので表記の仕方については改めて検討したいと思います。

また、先進地の視察についてですが実施しておりません。篠原先生からのアドバイスや、先進都市への電話などによる聞き取りは実施しています。これから具体的なアクションを検討していく部分については、先進地への視察は必要になると思います。

最後に、事例紹介の部分については、改めて県内事例を洗い直し差し替えていきたいと思っています。

つがまち観光協会 日向野委員

大柿地区のグリーンツーリズムでは宿泊できるまで進めていこうと考えているが、行政はどれだけ協力していただけるのか。

事務局

先日、大柿地区のグリーンツーリズム協議会の会長さんとお話をした時点では、宿泊まではちょっとという感じでした。しかし、地元で機運が盛り上がってくれば、お金の問題は難しいと思いますが行政として支援できる部分は支援していきたいと考えております。

つがまち観光協会 日向野委員

取り組み方が大田原市のグリーンツーリズムと異なると思います。市民が先に立ち上がってと言っていたが反対だと思います。行政が頑張らないといけないと思います。

地域協議会のメンバーは、研修などを行い頑張っているのですが、その辺りが伝わっていない感じで残念です。

大平町観光ぶどう園協議会 杉田委員

栃木市には太平山南山麓などの多様な観光資源を活用するという部分で、厄介な問題が起きています。イノシシなどによる鳥獣被害です。行政として何か対策を考えているのでしょうか。

事務局

太平山南山麓に限らず、市域一帯でのイノシシ被害が報告されております。観光資源として貴重な自然を荒らしてしまう鳥獣被害は耳の痛い話です。栃木地域の星野地区では、カタクリやセツブンソウといった山野草がシカの食害により全滅の危機にありました。ただ、地域の方が一生懸命に保護にあたっていたいただき、立ち直りかけております。市役所農林課においても、地元猟友会の協力のもと捕獲や間引きを行っているところでもあります。

大平町観光ぶどう園協議会 杉田委員

太平山のトレッキングルート上でも鳥獣に注意とあります。観光基本計画に直接的に関係は薄いかもしれませんが頭においていた方が良いと思います。

公募委員 小林委員

スタートアップ事業に位置付けられている観光まちづくり推進会議が来年度からスタートすることになり、本会議がそのまま移行することになると思います。そして、その中でいくつかのプロジェクトチームが立ち上げられると思いますが、そのメンバーの選定の方法はどうするのでしょうか。

それと、年度別にやる事が記載されていますが、目標値を設定した方が良いのではないのでしょうか。例えば、パンフレットをつくるということであれば何部つくとか。

あと、P.79の市のマスコットの活用について、各地域のマスコットを活用するのか、それとも合併後の新たなマスコットを活用していくのか、市としての考えをお聞きしたいです。

事務局

最初の質問については、まず我々が取り組まなくてはならないものとして観光まちづくり推進会議の立ち上げになります。設置要綱、定員とか具体的な細目については今年度中に決めていこうと考えております。ただ、想定でのお答えになりますが、本日お集まりの委員さんは観光に関する深い知識をお持ちの皆さんなので、お声掛けをさせていただくことになるかと思えます。

マスコットについては、現在募集中であります。これは新生栃木市の共通のマスコットとして募集しております。ただ、既存の各地域のマスコットについては今後も地域のマスコットとして活躍していただきたいと考えています。

公募委員 酒井委員

スケジュールの区分がわかりにくいと感じます。解釈の仕方では、3カ年で事業を完了するか、事業に取り掛かるかなど捉え方が異なると思います。

事務局

大変多くの施策をあげているため優先順位をつけなければならないのが現状です。財政的な問題により長期に位置付けなければならない部分もあります。ただ、現在あげている中で、優先順位が異なるのではないかとと思う施策がありましたら提示していただくと助かります。

公募委員 酒井委員

P. 63 の「駐車場やトイレ等観光利便施設の充実」「観光施設等のバリアフリー化の促進」については、長期ではなく短期で行う事業ではないでしょうか。

それと、地域協議会などの他の会議においても駐車場やトイレの問題は出ているのですが、情報は共有できているのでしょうか。同じような質問が何度も出ているということなら、それだけの問題であり短期で取り組む施策ではないのでしょうか。

事務局

トイレの問題については喫緊の課題であると感じています。P. 63 の「駐車場やトイレ等観光利便施設の充実」についての具体の計画を作成するのであれば、この基本計画程度のボリュームになると思います。例えば、トイレについてですが既存のトイレを「和式」から「洋式」への改善ということであれば1年程度で可能ですが、新たに整備するということであれば用地買収のほか、地域の理解などが必要であり、非常に時間がかかるものです。そういうことから市域全体での事業の完了目標とすると長期にせざるを得ないのが現状です。

先ほどの質問でもありましたが、表記については改めて検討させていただきます。

公募委員 酒井委員

もう一点、前回の委員会でも質問させていただいたのですが、外郭団体や市民団体の洗い直しはするのでしょうか。

事務局

現状では、各地域のグリーンツーリズムなどの団体の動きについては、地域により動き出しに差があります。しかし、各支所の中で予算を取り、その地域でのグリーンツーリズムなどの団体を支援する体制は整っております。今後は、各団体と行政の密接なコミュニケーションが必要だと思います。

岩舟町観光協会 長嶋代理委員

特にありません。

㈱観光農園いわふね 藤谷委員

P. 85 からの具体的アクションとありますが、これらは事務局の提案なのか、それとも各地域の皆さんの提案なのでしょうか。

事務局

地域別の取り組みについては、事務局である商工観光課や各支所により取りまとめを行っております。

事務局

基本計画に掲げる基本理念については皆様のご理解のもと決めさせていただきましたが、キャッチフレーズにつきましては、市長に選んでいただこうと考えております。この策定委員会で決めた方がよいなど、他のご意見がありましたらご発言をお願いします。

大平町観光協会 片柳委員

人にお任せするのも良いのですが、策定委員の意見も参考にさせていただいた方がなお良いと考えます。

個人的には、「自然だ！蔵だ！すぐそこだ！栃木市」に手を加え「自然だ！蔵だ！今だ！栃木市」が良いと思う。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。各委員でこれが良いかなというものを選んでいただき、それらを候補として決めさせていただいてよろしいでしょうか。ここにあるものだけではなく新たに提案していただいても大丈夫です。

清田委員長代理

それではご提案のある方をお願いします。

栃木市藤岡町観光協会 田中委員

市長が決めるとはいっても、結局は市長と事務局の合議のうえで決めるということでしょうか。

事務局

市長への一任を考えております。例えば、総合計画のキャッチフレーズについても担当部署が何度も市長のところへ赴いて決まったということもありますので、事務局からこれでどうですかというあげ方は行わないつもりです。

大平町観光協会 片柳委員

そういうことであれば、我々がこの場で決めたとしても最終的には市長が決定するといふのであれば、市長に任せて良いのではないのでしょうか。

清田委員長代理

それでは他の委員さんの中で、本日の資料の他に何か提案があれば事務局の方に提示していただき、それらを含めたうえで決めていただくということでしょうか。

事務局

それでは、来週の火曜日（11月26日）までに事務局までご連絡をお願いします。

閉 会あいさつ （高崎課長）